北九州市PCB処理監視委員会だより

Vol. 14　平成18年8月

若松区響灘地区で行われるＰＣＢ廃棄物処理事業が、安全かつ適正に行われるよう、北九州市は、施設の計画、建設、操業の各段階を通して監視を行う「北九州市ＰＣＢ処理監視委員会」を設置しています。
監視委員会の活動内容については、「監視委員会だより」を発行し、随時、市民の皆さんへお知らせします。
今回は、第１４回監視委員会の内容についてお伝えします。

◇　第１４回北九州市ＰＣＢ処理監視委員会

第１４回監視委員会を、６月２１日(水)日本環境安全事業㈱（以下：ＪＥＳＣＯ）北九州事業所において開催しました。

当日は、委員１１名（１名欠席）のほか、ＪＥＳＣＯや環境省、北九州市などＰＣＢ処理事業に関連する行政機関が出席しました。また、２３名の方が傍聴しました。

◇内　　容
- ○　施設立入り
- ○　会議（議題）
  - ⑴第１期処理施設の操業状況について
  - ⑵市外ＰＣＢ廃棄物の受け入れについて
- ○　ＪＥＳＣＯからの報告事項
  - ⑴第２期処理施設建設スケジュール
  - ⑵豊田事業所におけるＰＣＢ蒸気漏洩事故
  - ⑶東京事業所におけるＰＣＢ廃水・排気漏洩事故

【施設立入り】

議事に入る前に、委員は監視委員会要綱に基づき、ＰＣＢ処理施設への立入りを行いました。

（立入りの様子：真空加熱分離装置）

◎施設立入りに関する委員のコメント

- 安全対策用のマスクごしの説明で聞き取りにくかった。なんらかの対策を考えて欲しい。
- 施設内の温度が高くマスクや作業着着用での作業は、作業者の負担になるのではと感じた。
- 半年前の立入り時と比較して、作業への慣れから、作業自体が安定してきたように感じた。
- 操業中の立入りは初めてであったが、作業は順調に進行していると感じた。ただし、慣れが事故へつながる恐れもあるため、緊張感を維持して今後も安全に努めてほしい。
- 施設内で、すのこが割れている箇所があった。事故を防ぐためにも、速やかに補修をすべき。

【会議議事内容】

⑴第１期処理施設の操業状況について

①北九州ＰＣＢ廃棄物処理施設の処理状況について

- 平成１６年１２月から平成１８年５月末までの北九州事業所第１期処理施設におけるＰＣＢ廃棄物の受入状況と処理状況について、ＪＥＳＣＯから実績報告がありました。

＜平成１６年１２月から平成１８年５月までの実績＞

トランス	コンデンサ
ＰＣＢ廃棄物の受入台数（台）	
３４６	１，１２２
ＰＣＢ廃棄物の処理台数(台)	
３３０	１，０２５
〔参考〕試運転期間中の受入及び処理台数	
２０	１３８

②環境モニタリングについて

・　基準を超過した雨水中のダイオキシン類と排気中の悪臭成分について、ＪＥＳＣＯから以下の報告がありました。なお、その他の周辺環境や排出源での測定項目に異常は認められませんでした。

１）雨水中のダイオキシン類が基準を超えたが、その主成分はＰＣＢ処理施設由来のダイオキシンではなかった。現在は基準以下となっている。

２）排気中の悪臭成分（アセトアルデヒド）が吸着剤の充填不具合が原因で基準を超えた。充填要領の見直し等により現在は基準以下となっている。

③北九州事業所内部技術評価結果について

・　ＪＥＳＣＯでは、ＰＣＢ廃棄物の安全･確実な処理を行い、事故の未然防止を図るため、定期的に内部技術評価を実施することとしています。昨年９月に実施した操業全般、品質、安全衛生などへの評価によって要改善とされた点について改善措置実施の報告がありました。

⑵ 市外ＰＣＢ廃棄物の受け入れについて

・　北九州市内のＰＣＢ廃棄物処理は順調に進み、第１期施設で処理可能な市内のトランス類が残り少なくなってきています。そのため予定より早い本年夏頃から市外（福岡県内）の特定保管事業者に限定してトランスの受入を開始したい旨がＪＥＳＣＯより報告されました。また、コンデンサについては予定通り本年冬頃からの本格的な受入を予定している旨もあわせて報告されました。

・　これを受け、北九州市から、市内で処理実績のある九州電力に限定し収集運搬の安全性確保を条件として了承する旨、また本格的な受入は環境省の中間総括後に開始する旨の考えが示されました。

【ＪＥＳＣＯからの報告事項】

⑴第２期処理施設建設スケジュール

・　本年８月に業者決定、平成１９年４月頃に工事着手、平成２０年度に操業開始予定である旨が報告されました。

⑵豊田事業所におけるＰＣＢ蒸気漏洩事故

・　豊田事業所でのＰＣＢ蒸気漏洩事故（昨年１１月）について以下の報告がありました。

１）ＰＣＢ処理過程で第一蒸留塔底ポンプの圧力計が微振動によって脱落し、そこから濃縮洗浄油が漏洩し、ＰＣＢ蒸気が発生した。

２）各部屋の気密性が確保されていなかったため、部屋から漏れ出したＰＣＢ蒸気が外部へ漏洩した。

３）事故後の対策として、圧力計脱落防止のための接続部のネジ見直し、気密性確保のための開口仕舞いの点検、外部漏洩防止のための排気口への活性炭充填処置を実施した。

４）豊田事業所事故を踏まえ、北九州事業所においても、圧力計等の取り付け状態確認、気密性確認、運転作業者への再教育を実施した。

⑶東京事業所におけるＰＣＢ廃水・排気漏洩事故

・　東京事業所で３月下旬に発生した微量のＰＣＢを含んだ廃水の流出事故、及び５月下旬に発生した微量のＰＣＢを含んだ排気の排出事故について、以下の報告がありました。

１）屋外の一時貯留タンクへ送水していたＰＣＢ廃液がオーバーフローして、タンク外へ流出した。

２）処理施設は廃水流出事故によって稼動停止していたが、処理施設内のコンデンサ液中切断槽に残っていたＰＣＢが気化し、排気口から漏洩した。

３）北九州事業所の処理方式（脱塩素化分解）は、東京事業所の処理方式（水熱酸化分解）とは異なり、処理工程からの廃水は出ないため同様の事故は発生しない。

４）東京事業所の事故を受けて、設備改造等に係わる環境安全審査体制を強化した。

【討議内容】

委員会では以下のような質疑・応答がありました。

◎第１期処理施設の操業状況について

（質問）委員 ――――――――――――――――

施設の稼働率はどうやって算出しているのか。

（回答）ＪＥＳＣＯ ――――――――――――――――

稼働率は、北九州事業所の処理能力であるトランス週６台、コンデンサ週２４台を基準として、それに対する実際の処理台数の割合から算出している。

（質問）委員長

雨水中のダイオキシン類が基準を超えた点について、ＰＣＢ処理施設由来ではないと判断した根拠はなにか。

（回答）北九州市

基準超過時のダイオキシン類の組成を調べた結果、ポリ塩化ジベンゾフランやポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンと比較して、ＰＣＢ分解処理で生じる可能性があるコプラナーＰＣＢの割合が低かったため、ＰＣＢ処理施設由来のダイオキシン類ではないと判断した。

（質問）委員

１７年度の大気の分析結果ではＰＣＢとダイオキシン類が１６年度に比べて増加している。増加傾向にあるのでは。

（回答）ＪＥＳＣＯ

１７年度の大気中のＰＣＢ濃度は１６年度より増加しているが、以前報告した１５年度の値は１７年度とほぼ同様の値である。そのため、１７年度で急激に増加したという認識は持っていない。

（質問）委員

市とＪＥＳＣＯの測定値が異なっているが、測定方法は同じなのか。

（回答）北九州市

測定方法は同じだが、測定する時期が違うので、このオーダーで測定した場合、この程度の誤差は生じるものと考えている。

◎市外ＰＣＢ廃棄物の受け入れについて

（質問）委員

現在の施設では処理できないＰＣＢ廃棄物について、今後どのような対策をとる予定なのか。

（回答）ＪＥＳＣＯ

建設予定の第２期施設では、第１期施設で処理できないＰＣＢ廃棄物についても処理可能となる。今後は、第１期施設と第２期施設の併用によって北九州事業所の対象地域である岡山県以西１７県のＰＣＢ廃棄物を全て処理していく予定である。

（質問）委員

市役所の地下にあるトランスの処理状況は。

（回答）北九州市

トランスが大きく、地下から搬出できないため今年２月にＰＣＢ油のみを抜き取り処理を行った。地下に残っている容器の処理はＪＥＳＣＯが検討中である。

◎ＪＥＳＣＯからの報告事項について

（質問）委員

事故を起こした両事業所の現在の操業状況はどうなっているのか。

（回答）ＪＥＳＣＯ

現在、両事業所ともに操業を停止し、管理体制の見直しを含めた施設自体の点検をしている。豊田事業所では、先日、実施した試運転の結果を次回の豊田市の監視委員会で報告する。東京事業所については事故が２度発生していることから、現在はまだ改善対策を講じている段階。

（質問）委員

東京事業所の事故報告を受けて工程排水の事故について危惧している。

（回答）ＪＥＳＣＯ

全国５箇所のＰＣＢ処理施設の内、ＰＣＢ処理に伴う工程排水が排出される事業所は水熱酸化分解方式を採用した東京事業所のみである。北九州事業所は脱塩素化分解方式のため工程排水は排出されない。

（意見）委員

東京の事故については今回の監視委員会で初めて知った。事故時には早く連絡すべきだ。

（回答）北九州市

事故については直近の監視委員会で報告すべきとの認識があったため、今回の監視委員会での報告となった。ただし、事故時には速やかな報告を求めるとの監視委員会の要望があれば、今後はそのように対応して行きたい。

◎その他

（質問）委員

１０日ほど前の地震について、操業に影響などはなかったのか。

（回答）ＪＥＳＣＯ

北九州地区では震度３であり、この施設は被害を受けなかった。昨年の地震で記録が取れなかった経験から、地震計を変更して記録が残るように改善している。

北九州市PCB処理監視委員会委員

○学識経験者

氏　名	所属
浅岡　佐知夫	北九州市立大学国際環境工学部教授
是永　逸生	(社)日本技術士会九州支部副支部長
清田　高徳	北九州市立大学国際環境工学部教授
河井　一明	産業医科大学産業生態科学研究所助教授
吉永　耕二	九州工業大学工学部教授

○市民代表(公募による選出者)

氏　名	職業
嶋津　元彦	元団体職員
津田　潔	元会社員
成田　裕美子	自営業専従者
古野　和彦	団体職員
水城　秀信	大学院生

○市民代表(市民団体からの推薦者)

氏　名	推薦団体
大庭　卓朗	若松区自治総連合会
岡田　黎子	北九州市女性団体連絡会議

◆ＰＣＢ処理事業について

※ＰＣＢ処理事業に関するお問い合わせは、
日本環境安全事業㈱　北九州事業所　TEL　093-752-1113　まで
〒808-0021　福岡県北九州市若松区響町 1-62-24

※ＰＣＢ処理事業に関する情報は、
日本環境安全事業㈱のホームページ(http://www.jesconet.co.jp/pcbtop.htm)
に掲載しています。

◆処理施設の見学について

※情報公開ルームは、ご自由に見学ができます。【開館時間：平日 9:00～17:00】
（詳しい説明をご希望される方は、予めお電話（093-752-1113）でご予約下さい。）

◆ ＰＣＢ処理監視委員会について

※監視委員会は、市民の方の傍聴ができます。
委員会の開催は、市政だよりなどでお知らせします。

※ＰＣＢ処理監視委員会（会議資料、議事録など）や、
ＰＣＢ処理事業に関する情報は、市のホームページ
(http://www.city.kitakyushu.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=12334)
に掲載しています。

[発行]北九州市ＰＣＢ処理監視委員会

事務局：北九州市環境局環境経済部環境産業政策室
〒803-8501　北九州市小倉北区城内 1-1
TEL　093-582-2630　　FAX　093-582-2196